

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>				<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15				<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル		-		<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能		-		3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		3.0	0.20				
1.3 吸音		-		<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.4</b>	0.35				<b>2.4</b>
2.1 室温制御				<b>3.8</b>	0.50				
1 室温		-		3.0	0.60				
2 外皮性能		窓システム:U=3.21(W/m <sup>2</sup> K)、外壁:U=0.62(W/m <sup>2</sup> K)		5.0	0.40				
3 ゾーン別制御性		-							
2.2 湿度制御		-		<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式		-		<b>1.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.3</b>	0.25				<b>3.3</b>
3.1 昼光利用				<b>4.2</b>	0.30				
1 昼光率		2.5%≤[昼光率]		5.0	0.60				
2 方位別開口		-							
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40				
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御		-		3.0	1.00				
3.3 照度		-		<b>3.0</b>	0.15				
3.4 照明制御		-		<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気環境</b>				<b>3.9</b>	0.25				<b>3.9</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		4.0	1.00				
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30				
1 換気量		-		3.0	0.33				
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上		5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		-		1.0	0.33				
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-							
2 喫煙の制御		健康増進法(受動喫煙防止対策)第一種施設のため、屋内は完全禁煙。		5.0	1.00				
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>				<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40				<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.0</b>	0.40				
1 広さ・収納性		-							
2 高度情報通信設備対応		-							
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たしている		4.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.30				
1 広さ感・景観		-		1.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-							
3 内装計画		-		1.0	0.50				
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30				<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3歳児室:床フローリングt12、壁AEP塗装(PBt12.5)、天井木毛セメント版(PBt9.5)		5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)		4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.20				
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20				
3 電気設備		-		3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20				
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30		-	-	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.4</b>	0.30		-	-	
1	階高のゆとり	-	2.0	0.60		-	-	
2	空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40		-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30		-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	-	<b>2.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm=0.65	<b>5.0</b>	0.20		-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>1.6</b>	0.50		-	-	<b>1.6</b>
	集合住宅以外の評価		1.6	1.00		-	-	
	集合住宅の評価		-	-		-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	-	
	集合住宅の評価		-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	-	<b>3.3</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水	自動水栓などに加えて節水型便器を採用。	<b>4.0</b>	0.40		-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60		-	-	<b>3.4</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11		-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22		-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22		-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっていて、再利用できるユニット材(フリーフロア)も採用している。	5.0	0.22		-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	-	<b>3.0</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		<b>3.0</b>	0.30		-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70		-	-	
1	消火剤		-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率91%	<b>3.3</b>	0.33		-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33		-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	騒音		3.0	1.00		-	-	
2	振動		-	-		-	-	
3	悪臭		-	-		-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制		-	-		-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70		-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	○	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	2.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	1.0	3.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	2.0	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 主な指標

#### Q1 室内環境

##### 2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) 0.6

U値(W/m2K) 窓システム 3.2 屋根 0.6 外壁 0.3 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

##### 3.1.1 昼光率

昼光率 7.9%

##### 4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 14.8%

#### Q2 サービス性能

##### 1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 0.0㎡/人 病床 0.0㎡/床 シングル 0.0㎡ ツイン 0.0㎡

##### 1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

##### 1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

##### 1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

##### 2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

##### 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

##### 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

##### 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

##### 3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

##### 3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

##### 3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

#### Q3 室外環境(敷地内)

##### 1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 33% 建物緑化指数 0%

##### 3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 20% 水平投影面積率 33% 地表面対策面積率 24% 舗装面積率 10%

#### LR1 エネルギー

##### 1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> 0.65 断熱等性能等級 0 相当

##### 2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光 0.0kW 太陽熱等 0.0kW 蓄電池 0.0kW

##### 3 設備システムの高効率化

BEI/BEI<sub>m</sub> 再エネ有 0.84 無 0.84 オフサイト再エネ有 - -

##### 非住宅部分

一次エネ削減率 再エネ有 無 -

##### 集合住宅の評価

#### LR2 資源・マテリアル

##### 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

##### 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 塩ビシート 自治体指定の特定品目等 -

##### 2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

##### 3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

##### 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

##### 3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP) 8

#### LR3 敷地外環境

##### 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 48% 隣棟間隔指標R<sub>w</sub> 2.77

地表面対策面積率 49.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S<sub>b</sub> 321㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W<sub>s</sub> 56.901 m 基準高さH<sub>b</sub> 11.533 m

緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡